静中・静高関東同窓会会報

静中・静高関東同窓会
会報　第36号
平成5年12月15日発行
編集人　上杉重吉

偉大な人間の温もり

44期　臼井　茂

私たち四四期は関東大震災の翌年の大正十三年に入学した。私は城内小学校から野間省一（故人・講談社社長、旧姓高木）君や谷川脩君らと、焼津から向坂健三（鈴木与平夫人の兄）、鈴与の江戸時代からの社史を書いた真杉高之（当時は太郎）、そして清水から鈴木与平（当時は一郎）君を迎え、私たちは鈴与のいっちゃんと親しんでいた。

五月二十三日に逝去された鈴木与平さん。三十余年にわたって静中静高同窓会々長としてご尽力くださった鈴木さんとの思い出等を、同期の臼井茂さんに記していただいた。

私、真杉君、与平さんは同じB組で、入学試験の成績が二番の与平さんが級長、七番の真杉君が副級長だった。それが一学期の試験で真杉君が一番、私が二番だったので、二学期からは真杉君が級長、私が副級長になった。後年、鈴与の社内報に「七十年来し方」と題して、与平さんは「私は最高が九番だった」と思い出を書いている。

二学期に入り三人で同人雑誌を出すことになった。そのころ外濠の曲り角、いまのNHK静岡局のあたりが水泳場になっていて夏が終わると濠に浮かんだ小屋が空いていた。松井静夫君の父がタウン紙「めざまし新聞」を出しており、小屋はそこの持ちものだった。与平さんは清水の会社から重い謄写版の箱を担いできてこの小屋でガリを切った。小さいきれいな字で、それは去年もらった軽井沢からの絵はがきの字と全く変らず女性的な字で、万事に几帳面だった与平さんの性格を表わしていた。

私は谷川君、与平さんらと昭和四年旧制静高に入ったが、二年になると与平さんは姿をみせなかった。病気かなと清水の自宅に手紙を出したら、しばらくして、東京から返事がきた。静高では前の年の暮に選手制度廃止を要求して全校的なストがあり自宅通学の私たちも布団を担ぎ込んで寮にかん詰になった。与平さんの父、先代の与平さんが「こんな学校においたらアカになってしまう」と心配して、成城学園の小原国芳理事長に頼んで成城高校に転入したのだった。

その後東大で会えるかなと待っていたら与平さんは京大にいってしまった。後年TBSのニュース・キャスターになった古谷綱正君や朝日新聞論説委員から成城大学の文学部長になった堀川直義君（映画監督堀川弘通の兄）らに聞いた話では成城学園は小学校から高校まで自宅から通うので、せめて大学は親もとを離れたいと京大に行く者が多かったという。

与平さんは京大経済学部のゼミで朝日新聞社主上野理一の息子の淳一と交わるようになった。片や御影の、片や鈴与の御曹司同士で大いに話が合ったらしく、この交友関係は生涯続いた。

戦争、敗戦、再建と、昭和十五年三〇歳で社長を継いだ与平さんにとっては苦闘の連続だったが、地味な与平さんと、どちらかというと剛毅型だった弟の要二君（45期）とのコンビが絶妙で、見事に戦後の荒波をくぐり抜けて今日の大鈴与グループを築き上げた。組織というものは安定し軌道にのると、自ら人材も集まってくるが、それからはその人材をどう育てるかが勝負となってくる。社長としての与平さんの人間的な暖かみが何千の社員にじわじわと泌み込んでいって、鈴与は磐石の根を張ることができた。

与平さんは私たち四四期「芙蓉会」の会長としてよく面倒をみてくれた。昭和三〇年ごろだったか熱海の鈴与の社員寮でやった時は東西から一〇〇名近く集まる大盛会で、与平さんもうれしそうな顔をしていた。それから芙蓉会は二月は清水の「千年成」、八月は静岡の「多ね代」で開くことになり、清水の名妓をつれてくるので静岡の姐さん方ともすっかり仲よしになった。今の社長通弘さん（76期）にお願いしてこのよき「慣例」は続けていただくことにしたい。

清水市へは体育館の寄贈、清水港の歴史を物語る資料を収集したフェルケール博物館の開設など、与平さんの郷土への貢献は「名誉市民」を贈ったくらいでは報ゆることができないほど大きい。

私たち四四期はさきに世界の出版文化を高めた野間省一君を失ったが、こんどは鈴木与平さんを失い大きな空白ができてしまった。

二六三人参集して
関東同窓会総会・懇親会

六月十八日（金）梅雨空ながら続々と同窓生が会場へ。

会場はお茶の水駅に近い新日本証券の地階大食堂、校歌応援歌のメロディが流れる。

今年の新年会兼幹事会の一月十九日は、皇太子妃内定という佳き日だったが、この日は内閣不信任案が可決、衆議院が解散という画期的な日ともなった。

静岡からの来賓四氏を含めて出席者は二六三名。静中静高同窓会の各地定例会合では、わが関東同窓会が今年も参加者数最高を誇ってよいだろう。

十九回目を迎えた今総会は特に現役大学生が九十五名も参集し、それぞれ同期会を兼ねた若々しい集いとなったことは喜ばしいことである。

まず校歌を高らかに斉唱して開会。大石巌関東同窓会長（53期）が、「約三十年前の発足当時、五百名だった登録メンバーも現在三千四百名、より活性化し発展させるために提案を活発にしていただき、役員会をバックアップしてほしい」と挨拶。そして、去る五月二十三日逝去された鈴木与平会長（44期）の長年にわたる業績等について報告され、慎んでご冥福を祈って全員で黙とうする。

次いで来賓の川村春雄副会長（46期）と小島守教頭にご挨拶を賜り、議事に入る。

平成四年度事業報告と決算及び監査報告、次に平成五年度事業計画と予算案が提案されてそれぞれ可決承認された。

懇親会は、最年長岩波信平顧問（42期）の音頭による乾杯で始まり、先輩同輩後輩が、会場いっぱい、賑やかな歓談が続いた。

参加を十年ごとの期別にしてみると、

40期代…12名　50期代…37名
60期代…48名　70期代…32名
80期代…25名　90期代…8名
100期代…97名

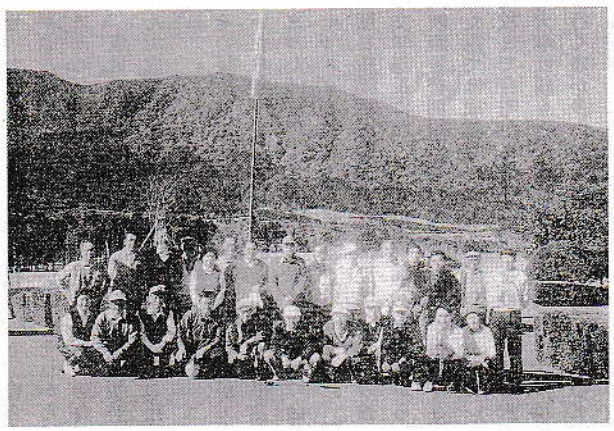
今後80期代と90期代のより多数の参加を期待する次第。

例年通り67期諸氏の尽力による、安倍川餅・わさび漬・黒はんぺん・鰹の角煮等の売場の売上げも上々のようだ。

受付で配布した会報35号はNHKの山川静夫氏（67期）の「わが青春の野球時代」をはじめ、20ページの中に母校・恩師や青春の回想記等多く、望郷の思いもにじんでいる。

世代を越えた懇談は二時間余におよび、若い元応援団長相坂摂治（108期）のリードで応援歌・校歌を心の底から大合唱し、再会を約して幕を閉じた。

（60期　上杉重吉）



その後の同窓会活動
（平成5年6月～5年11月）

◇役員会
6月14日（月）18時～
新日本証券　役員会議室
出席者…11名
・総会準備

◇第19回総会
6月18日（金）
別記報告を参照

◇幹事会
7月8日（木）18時30分～
新日本証券食堂
出席者…40名
・総会報告、意見交換
・会報発送の依頼　ほか

◇同窓会合同役員会
10月16日（土）14時～
母校一階会議室
関東支部より大石会長と月見里顧問が出席。

◇役員会
10月28日（木）18時30分～
新日本証券会議室
出席者…12名
・今後の運営に関し討議ほか

◇同窓会平成五年度定時総会
10月30日(土)14時～
静岡、クーポール会館
・関東支部より月見里顧問と上杉副会長が出席。

◇第八回印高会ゴルフ
11月5日（金）
箱根カントリー倶楽

部
参加者…34名
優勝…荒谷じつ子（68期）
2位…牧田　仁男（67期）
3位…中村　竜二（70期）

事務局よりのお願い

①振込用紙は会報発行のたびに、会費の納入済・未納にかかわらず銘々に同封しておりますのでご諒承願います。なお、用紙の裏面に必らず期名を記入して下さい。

②住所変更及び勤務先部署等の変更があった場合は、すみやかに事務局にお知らせ下さい。

③会報及び名簿に新たに広告掲載を希望する方は事務局にお知らせ下さい。

◎各期の幹事は、ぜひ幹事会へ出席してください。もし欠席の場合は代理の方に依頼をお願いいたします。

◎幹事が未定・不明の期では至急幹事を選出して、事務局まで連絡してください。

〒153　目黒区上目黒2－18－13
山中ビル　タカラ歯科医院内
静中・静高関東同窓会
薬科名雄（87期）
（電　〇三－三七九二－三五八〇）
電話は午後〇時～午後六時にお願いします。
FAX　〇三－三七九二－七八二八

各期幹事の一覧

幹事が変更の場合は事務局までお知らせください。特に幹事未定の期は至急選出してご連絡を！

42…井出多米夫・岩波信平
43…今井志郎・西沢純三
44…村井東助
45…鈴木弥門・田附敏三
46…西　静男・山本幹夫
47…杉山栄一
48…原崎進一
49…菅沼　栄・杉本久敬
50…梶原忠治
51…佐伯正剛
52…服部雅雄・広川　聡
53…奥野　孝・山嵜章雄・月見里得知郎
54…庵原悌次
55…相川富士雄・法月重雄
56…清水逸郎・鈴木源一
57…岩井平一郎・影島利邦
58…田熊博邦・藤田　登
59…青木静男・奥沢　徹
60…上杉重吉・堤　崇・山本雅之助
61…大石次男
62・63…木下景一・白鳥芳夫
64・65…野沢正憲・渡辺素夫
66…田中俊男
67…朝比奈正三・梶原由三・成岡英彦
68…高橋俊見・荒谷じつ子・大川庄治・雨宮明生
69…小林泰三
70…味岡　宏・川端正良・関哲男・中馬敏雄・宮本達治
71…児玉文男・後藤弘枝・海野幸雄・篠原　直
72…桜井亮介・深田　均
73…杉山　光・中西英一
74…佐藤鐘司・藤原経史
75…後藤正義
76…酒井孝太郎・鈴木　浩
77…加藤重信
78…鈴木藤男
79…上田尚亮
80…野崎幸彦・諸星勝保
81…鈴木素明・萩原英昭
82…杉本三郎・堀内淳司
84…榊原明生・田辺　哲
85…池田幸司・増井喜一郎
86…成岡和美
87…橋村芳一・平岩正史・薬科名雄・沢井良輔
89…吉永幸弘
90…荒井千明・小林一郎
92…清水　篤
93…岡村幸彦・望月　朗
94…松野敦子
95…新村昌弘
96…奥田規之・細沢　優
97…藤森　尚
100…船橋　智
102…田代卓靖

第46回 江の島会

9月5日、永野名誉会長（35期）が経営される恵比寿屋さんで、田中母校校長、川村同窓会副会長（46期）等のご出席を得て、34名が集い盛大に行われた。

総会は奥沢徹氏（59期）の司会で始まり、佐伯正剛会長（51期）が「江の島会も数えて46回になった。この江の島会の江という字には、兄弟姉妹、宴、集まりという意味が含まれている。母校を同じくする人達が、江の島という場所に集まり懇親を行うことと一致している。今後とも江の島会を通じて色々な意味での縁を大切にしていただきたい」と挨拶した。

続いて校長、川村副会長、宮川誠同窓会事務局（85期）から各々母校の現況について報告があり、特に母校創立125周年記念行事について、百年誌以降の資料の収集について協力願いたい旨の話があり一同あらためて母校の歴史と伝統の重みを感じとった。

なお、今回から監事が井出多米夫氏（42期）から園田芳男氏（53期）、雨宮明生氏（68期）に引継ぐことが承認された。

引き続いて黒田秀幸氏（67期）の司会で懇親会が始まり、井出氏の音頭で校歌を斉唱し、平尾鋼之輔氏（37期）の発声で乾盃、宴に入った。

会場では期を超えた歓談の輪があちらこちらで広がり、昔話や先生方とのエピソードで爆笑の波が幾度となく起った。

話は尽きることがなかったが、再び校歌を斉唱し、再会を約して散会した。

（68期　雨宮明生記）

富士通電子デバイス特約店・OA機器販社
東海デバイス株式会社
（旧社名　東海電気工業株式会社）
顧　問　清水照彦（61期）
本　社　東京都目黒区目黒4-6-33
TEL03-3791-1181㈹　FAX03-3715-1558

回想・随感・近況など

八十路を越えて

43期　三好由三郎

この年になると老人生活にもなれてきて老化を感じてもさほど気にしなくなった。今は軽い高血圧の他は特に異常はないようだ。これまでは病気や障害も多かった。五年前には白内障で眼内レンズ挿入移植の、二年前には洞機能不全で心臓ペースメーカー植込の手術を受けた。何れも結果は良好でその機能を十分回復し、それに伴って身体全体に力が着きまた気力も向上して今の健康状態となった。

子供の時から家族に老人が居なかったこともあって老人に係る知識が少なかったので、自分が老化を意識するようになると対応にとまどうばかりだった。

老化は年とともに進行を速めるが適切な対策を講じれば阻止または鈍化することができる。老化が重度であれば医療による対策となるが成るべくそうならないように対策を講じたい。

その対策には心身ともに適応したものを求め、実施に当っては続行する強い意志と努力を心要とする。やがてそれは日常生活の一部として実行できるようになる。そうなると老人の頑固などと言われることがあっても気にしないで続ける。対策は易しく楽しく実行できてかつ効果のあるものを過去に体験し取得したものから選び出せば最も実行し易いと思う。

さて、私の場合はテレビをよく見ることである。これまでの経歴ゆえか政治経済、社会事情等に関心が向き、その情報は多くテレビから得ている。またスポーツ、娯楽、各地の事情その他も広くテレビで楽しんでいる。したがってテレビを視聴する時間はかなり多くなる。関心、判断、批判、好奇心などは惚けの最大の防止策と思う。新聞は密度の濃い情報源で正確を期して二紙を読んでいる。文庫本は未だ読んでいなかった名著が手軽に入手できるのでありがたい。

囲碁は社会人となるとき将来役に立つと友人から手ほどきを受けた。その後免状なども戴いてはきたが、今は月二回高校の同級三人と楽しくやっている。碁は実によく頭を使う。役に立つと言った友人に感謝している。

体力の老化対策として、毎朝約二十分間床の上で筋肉をほぐし関節を和らげる軽い全身運動を行っている。落語の小さん師匠は剣道の大家でもあるが、過日テレビで師匠の毎日の運動が紹介されていた。それが私のと殆ど同じだったので少し驚いたが、床上の運動ではそれほど変ったものはできない訳である。ささやかな庭木の手入れ、家事の雑用も外出の用達も私の仕事とし、外出も時には自転車を使用するなど成るべく小まめに動くことにしている。

スポーツは今はゴルフのみで盛夏厳寒季を除きよく出掛ける。老人にスポーツが良いことは言うまでもない。過日、私のゴルフ場で八十歳以上の会員のプラコンで、九十歳の最長老お二方と組んでプレーをした時のことである。二方の片方はルールにうるさく軽少の違反でも注意を促す、他方は打数を間違えたり些少のルール違反は無視する正反対のゴルフで、会員間では周知のことで大目に見ることになっている。それが同じ組なので案の定、数ホールで悶着を繰り返し相譲らず、おかしくもありどちらに就くこともできず閉口したが、プレーは無事終了した。そこはスポーツの良さでお二方はビールで乾杯し楽しく談笑して次回を約しておられた。この年でこんなゴルフのできるのをまことに羨しく思った。

老いの繰り言で恐縮でした。一老人が何を考え、何をして過しているかお解りいただけたでしょうか。

静岡の万葉を歩く（その七）

51期　原崎　郁平

清水市興津清見寺町清見潟公園に万葉歌碑が立っている。清見寺の石段を下りて海岸に向かって約百メートル行くと左側にある。

廬原（いほはら）の
　清見の崎の三保の浦の
寛（ゆた）けき見つつ
　もの思（も）ひもなし

田口益人（巻三―二九六）

禅竜者山梨甚一（老人会々長）となっており昭和六十一年八月二十三日に建てられている。大きさは縦一二〇センチメートル、幅約一七五〇センチメートルの石碑である。歌碑はいくつかの石を従えて堂々と清見寺に向かい合って立っている感じの白い巨大な石で、黒い陰刻の字が鮮やかだ。右側の副碑には「和銅元年（七〇八）三月、従五位上　田口益人太夫任上野国司時至駿河国清見崎作歌」とある。太夫は（まへつきみ）上野国（かみつけのくに）司（みことも）任は（よさす）と読む。

この歌の「廬原」は現在の庵原でこの地は元庵原郡興津町であった。「清見の崎」はこの清見潟の海岸を指しており、「三保の浦」は清見潟の海岸から見える三保の松原の海のことである。この豊かな景色を見ていると物思いも何もなくなるといっている所を見ると昔の人が都の政争を忘れようとした時の寛ろぎが感ぜられる。

清見寺は天武天皇の時鎮護の関寺として仏堂が建立されたのが寺の創建とされている。枕の草子に清見ケ関の名前がみえており、清見潟の風景を眼下にみる勝景に恵まれていた為、古来東海道を往来する人々によって紀行文や歌に詠まれてきた。その後一二六一（弘長元年）聖一国師の法を継ぐ関聖明元上人、足利尊氏、今川義元の軍師太原崇孚（たいげんすうふ）等の人々により再興された。

徳川家康の武田攻めの時に清見寺が焼き払われたが江戸時代に再建された。今の寺には家康が好ん

だ清見寺庭園や鎌倉期の梵鐘、江戸時代の五百羅漢の石像、高山樗牛の文学碑などがある。又政治家大野伴睦の俳句

秋晴や　三保の松原　一文字

の句碑があるが、作者は「万木」となっているところが面白い。

山下清の「清見寺スケッチの思い出」の一節を書いた板もある。

寺の下の国道沿いに「大正天皇在東宮海水浴御成道」と「高山樗牛假寓の處」という石柱が立っている。「樗牛の碑」に次の言葉が彫ってある。石柱の右側「樗牛は清見潟の風景をこよなく愛し明治三十三年秋当處の三清館に假寓して清見寺の鐘声を聞いた」、左側「三清館の所在は茲より南方二十米付近にあった　昭和四十四年十月旧三清館経営者　嗣子　山梨陽建立」

清見寺から国道沿いに二百米程西の左側に坐漁荘跡がある。今は「西園寺記念公園」になっておりその中に清見寺町公民館が建っている。入口を入った正面に元住友銀行頭取堀田庄三の筆になる「坐漁荘址」の大きな石碑がある。

西園寺公望は一九一九(大正八)年第一次世界大戦後のベルサイユ講和条約に日本全権として出席した。この建物は西園寺公が講和会議に出席中に建てられた。以後現役を退いてから此処に住んだが、後継内閣の選任には元老として重きをなし、政府財界の要人の訪問が多く、所謂「興津詣で」が盛んであった。その為に静岡駅に特急列車が停車するようになったことを思い出した。会談の順番待ちの宿として要人たちが宿泊した水口屋が近くにあるが現在は鈴与研修センターになっている。水口屋は江戸時代に東海道の脇本陣であり、アメリカ人オリバー・スタットラー著「ニッポンの歴史の宿」の舞台で有名であるとのこと。坐漁荘の建物は昭和四十六年に愛知県の明治村に移築されており、今でも見ることができる。

興津の町を歩いていると数軒おきにと言ってもよいほど、軒下に「殉国の家」の札が掛かっている家がある。去る日の太平洋戦争の戦死者を出した家である。私達と同年輩のこの町の人が数多く戦死していることを知り、私が今生きていることの意味を更めて考えさせられた。

清見寺の門前に「清見寺膏薬」を売る店があると資料で見たので探したら「魚格」という魚屋の隣の小長谷忠雄氏のお宅がそれであった。今は看板を下ろし膏薬を売っていない。

町の外れに明治の元勲井上馨の別荘があり銅像が立っていたのを思い出した。私が学齢前に住んだ家の辺りを探したが建て替えられていてどの辺りだったか見当がつかなかった。

奈良の大仏の仁王の弾痕

51期　伊藤　眞吉

私は京大機械工学科を卒業し、陸軍と防衛庁の研究所で約二十年鉄砲の研究をし、その後民間の猟銃会社の研究部長などを約二十年した。

鉄砲の研究だけを約四十年職業としたものは神武以来日本にはいないので、実力はないのに鉄砲界では大御所とされている。

それで平成四年一月に、十年くらい兼務で顧問をしていた科学警察研究所を介して、奈良の仁王を見に行ってくれと頼まれた。担当は奈良県警の文化財保安官の中野警視であった。

日本中の警察で「文化財保安官」という職があるのは奈良だけで京都にも無いそうである。「警視」とは大変高位で静岡南署の署長程度である。

時効にかかって起訴できない話なので警察からは予算がとれず、東大寺は寄付金を集めている状態で金はなく、無料という話であったが御賽銭のつもりで引受けた。

東大寺は約千二百年前に建立されたが兵火などに遭い南大門が最も古い建物で、約七百八十年前のものだという。門は昭和五年に修理されたが二つの仁王は七百八十八年ぶりに五億円余をかけて解体修理中であった。国と県の補助金はあるが、約一・五億円は東大寺が負担するそうであった。

昭和五年にも門の中から今回と大同小異の弾丸四箇が発見されて大事に保存されていた。

日本最大の高さ約八・四米の、国宝の仁王は数十箇の木片に分解されていた。向って左側の阿形像の左上腕に直径約十二糎の鉛球弾が深さ約十二糎で当っていた。仁王は檜で殆んど老化していなかった。東大寺は大仏殿も二月堂も皆檜製で、神社仏閣は爆とばかり思っていた私には意外であった。

私の立会の下で、弾丸ははれものにさわるように摘出された。

射入孔の方向から、弾丸は西方の近鉄奈良駅の方から発射したものと思う。

友人の福岡県警の科学捜査研究所長の池田氏が発射実験をしてくれて、松材に十二糎侵徹する時の弾丸の速さは百六米毎秒である事が判った。射表から射距離は四百米以上と推定された。

この種の弾丸が四百米飛ぶためには四十五度近い角度で空に向けて射たなくてはならず射弾の散布

が広くて命中など期待できない。火縄銃等の有効射程（実用距離）は約百米とされている。

引受けて以来多くの人々に教えてもらい、中学以来最も不得手であった歴史や地理を泥縄で勉強して、夜も眠れないくらいあれやこれや考えて、三月に約百頁の報告書を提出した。

奈良本辰也著「日本歴史年表」に出ている「軍隊が出動して鎮圧した大正十二年三月十八日の水平社対国粋会の暴動の際の流れ弾であろう」というのが結論であった。

県警、県（文化財保存課）、東大寺の三者が協議して公表するのでそれまで〝黙っていよ〟との事であったが、七月の修理済仁王の公開直前に東大寺（財務執事）が独断で単独でテレビや新聞に発表した。それでは「永禄十年の三好・松永の合戦の弾である。専門家に頼んで調査中である。」となっていた。

奈良は全国水平社の発祥の地で、今でも差別民の話は絶対に禁物になっている由で、財務執事（私が会ったのは教学執事）は募金の方便（嘘）としてそのように発表したのであろう。

詳細を述べる紙面は無いが、鉄砲伝来後二十四年の永禄十年の三好・松永の合戦（その時大仏殿が炎上して大仏の頭が落ちた）の弾、鹿の密猟弾、悪質のイタズラ等ではない。

運　命

54期　高井　昂

運命とは人間の行動を支配する大きな力、人間の力ではどうすることも出来ない変化、成り行きといわれています。

軍隊生活の中でこれが運命だと感じた事を縮図してお話します。

先ず昭和十七年学校を卒業すると直ちに三島の野戦重砲部隊に入隊しました。ここで初年兵教育をほどほどに終了し、千葉の野砲校に入学しました。そして年末には見習士官として原隊に復帰しました。ここからが私の運命の分かれ目となったわけです。

三島の本隊はビルマの第一線で活躍していたので我々は留守隊に復帰したわけで、この時の見習士官は二十四名だったと記憶しています。そしてこの二十四名は全員本隊のいるビルマに行くものと誰もが思っていました。

ところがそれから一ケ月とたたないうちに私ひとりが満洲の北の端にあるハイラルの国境守備隊に配属され、孤につまれた思いでした。なぜこの寒い北満に来なければならないのかと不思議でならなかったのです。

その翌年、三島に残った同志は皆、本隊のビルマに移動したが、その後全滅したとも聞きました。

それから一年もたたないうちに今迄の重砲から高射砲に転属させられ、この時もなぜかと疑問をいだいたものでした。これも一つの運命で、北満の国境守備から主要都市を守備するためチチハル、ハルピン、奉天と逐次南下し二十年には朝鮮との境の安東という都市に移動し、朝鮮と満洲を結ぶ鉄橋の守備の任につきました。

その後南方へ行く部隊と内地の守備に就く部隊とに分れました。私どもは内地の配備に廻されたが、これも一つの運命でした。

内地に到着したのは二十年七月一日、内地に到着するまではどこに行くのか判らず不安でした。

しかし汽車に乗って始めて仙台の歩兵部隊だと判ったけれども、高射砲出身の私がなぜ歩兵部隊に行くのか、ここでも不思議に思いました。

仙台に着いて歩兵部隊は郊外の宮城野原に勤務しました。仙台の部隊は全て青葉城内及びその周辺に駐屯していました。七月九日の夜青葉城を中心に市街地は空襲を受け全滅してしまったわけですが、私はまた、ここでも郊外に居たので何の被害も受けず、これも一つの運命だと思いました。

こう思うと、南方に行くべきところ北方に行き、満洲を南下した時南方に行くべきところ内地に帰り、それも終戦一ケ月前満洲引揚げ最終船団に加わって帰って来ました。内地に帰れば当然空に会襲うべきところこれも回避でき、これ全て人間の力でどうすることも出来ない運命だと思います。

これからも程々に食べ、程々に運動をし、程々に楽しみ、それで病に倒れればそれは運命だと諦め、中学時代に庭球部で鍛えた体を資本に有意義な老後を暮らしたいと思います。

我等温泉めぐりの旅鳥

55期　峰田　陟

・献血50回、妻と献体登録

静岡・東京の教員生活40年、昭和58年3月停年退職し、現在11年め。静岡在住の22年間は病弱で医者のお蔭でやっと生きのび、兵隊にも行かず現在に至る。そのお礼代りにと献血50回、イヤーバンク・アイバンク、妻と共に献体に登録。それで死亡通知は年賀状をいただく方々だけに出し、通夜は身内だけでやる。葬儀は解剖実習が終わり遺骨が返還される一年後に、一周忌と兼ねて実施する予定。

・妻と日本の秘湯めぐり

無趣味の私は停年退職後をどう過そうかと妻と種々話し合い、到達した結論は二人で共に楽しめる日本の秘湯めぐりだった。そこで新聞広告、旅行社を手当り次第に見て、月2回の割で温泉めぐりを楽しむ。この10年間で260回ほど。もうこの頃は新聞に出るツアー、旅行社のパンフの場所は、ほとんど既に行った所ばかり。これからは今までに行った温泉の中で、ぜひもう一度行きたい所を探して旅行しようと思う。最近は私の白内障が進み、細かい字が読みにくくなったので妻が計画・立案・電話してくれ、私は殿様旅行である。

・旅行代理店のいろいろ

朝日旅行会は日本の秘湯の草分けで、温泉は最高だが二人だと合部屋で料金も割高。近畿日本ツーリストは安かろう悪かろうで、ツアーの種類は最多で格安だが、行き帰りの昼食は自弁だし、宿も二グループ、三グループの合部屋。

その他阪急・小田急・読売・毎日等々、種類が少なく利用価値いまいち。やはり自分でガイドブックを読んで旅行計画を作り、宿も直接交渉で決めて、JR旅行センターでフルムーンでキップを買って行くのが最適。

・海外旅行は22回

昭和52年頃から年1回の割で始めた海外旅行も22回を数え、行かない所は中国の奥の方、アメリカ・カナダの東部、中南米、オーストラリア、アフリカ西海岸、モロッコ、東欧、ロシア、英国、北極と南極だけ。

・外国のホテル事情と梅干と醤油

海外のホテルは二人部屋が基本なので宿泊は快適だが、食事に調味料が塩と胡椒しかなく生野菜も少なく味が我々の口に合わない。二、三日すると、すし食いてー、お茶漬食いてーとなってしまう。またベッドがからだになじまず、腰が痛くなり早く自宅に帰って畳の上で大の字になってぐっすり寝たくなる。それにスイスを除き生水が飲めずミネラルウォーター持参。トルコへ行った時、朝の洗顔で水道の水をほんのチョッピリ飲んでしまい、十日間下痢続きで帰国してやっと全快。そして外国旅行には梅干と醤油の小瓶を持って行くと便利。梅干は毎朝起きぬけに一個食べると整腸剤に。醤油は昼食、夕食時に焼魚、焼肉にチョットかけると極めて美味。

・海外旅行でもう一度行きたい所

今までの海外旅行でよかったなあという所は北欧三国（ノルウェー、スウェーデン、フィンランド）、スイスのアルプス三山めぐり（モンブラン、マッターホーン、ユングフラウ）、ニュージーランド、アラスカの四か所。

・東の大関、夏油（げとう）温泉

今までに行った秘湯の中で最も印象の深いのが夏油温泉。東北新幹線の北上駅下車、JRバスで一時間西進し山奥の夏油川端に五か所の露天風呂が点在する秘郷。八五〇年前に開湯され、冬は豪雪のため連休明けから11月中旬までの営業で新緑、紅葉の時期は最高の景観。

・今後の旅行計画

バブルがはじけた今日、国内の秘湯で印象の深かった所。宿は国民休暇村、国民宿舎、民宿、共済組合の宿、簡保の宿をさがして、のんびりと二人で温泉につかり、旅を楽しもうと思っている。

× × ×

友情

60期　齊木　學

名古屋に育った小生は、二年生を終了した時、静中に転校して来た。

永年住みなれた所から未知の所に移って来る事は、誰でも嫌なものであるがこれが大して苦しまなかったところに静中の人々の良さがあったと思う。

名古屋で中学一年から柔道をやっていたので早速柔道部に入れられた。当時の柔道部には、石割、笠間、鈴木、磯西、宮崎、佐藤君…等の錚々たるメンバーがおり、早速毎日毎日遅く迄練習することとなった。

しかし、今のように食糧も豊富でなかったせいか堂々たる体格の人がいなかったので助かった。柔道部の面々は皆真面目で、練習のほかよく勉強をした。そして小生に静中の歴史やら、この学校での過し方を親切に教えてくれた。

中学も四～五年になった頃には戦争も激しくなり、柔道部の対校試合も草薙球場に畳を敷いて行われるようになった。クッションがないので体力に劣った我がチームは、投げられると痛さが骨身に応えた。

また、小生の父の勤務先の影響で汽車通学をしていた。そのため朝早くから同じ汽車で通学していた大勢の友達とも親しくなれた。帰りの汽車は、柔道の練習で遅くなったが、他のスポーツマンと一緒の汽車となり、今日やったスポーツの話に花を咲かせた。朝から夕方まで同じ境遇におかれると、より親しくなるものである。当時用宗駅から通学していた陸上の花形石田義郎君とは特に親しくしていたが今は亡く、残念な事をした。ただただ御冥福を祈るだけである。

昭和十九年になり戦争も益々激しくなった。若い我々のところには、陸士、海兵、予科練等から早期入学の誘いが盛んに来た。いずれどこかにという考えから小生は陸軍経理学校予科（陸経）を受験したら合格した。

静中からも数人行くこととなった。本来なら卒業後であるが、戦況から静中の途中で行く事となった。静中の友とは、二年余り一緒に生活しただけで別れることとなってしまった。

陸経入校の前になって日の丸の旗に間処校長を始め各先生や大勢の友達（百人以上）がサインをして武運長久を祈ってくれた。この日の丸の旗は、今でも大切にしており、これを見るたびに短かかったが味が濃かった静中時代が思い出される。

最近の文芸春秋（一九九三年十月号）に旧制静高（今の静大）の同級生十二人が同級生交歓という会をして写真が載った。静中からは、小生と、静中の関東同窓会誌（三十五号）に「床並繁先生のこと」と題して達筆を奮われた安田正之君と二人が出席した。安田君には卒業以来始めて会った。この文芸春秋を見た人から早速手紙を頂いた。柔道部にいた鈴木亀雄君がトップバッターで、その他多くの人からであったが、一番頭の毛が薄くなっているが、身体に気をつけて頑張れと激励された。ここでも改めて旧友の有難さに感謝した。

最後に、小生は静岡の地から東京、茨城、東京と転々として生活して来たが、両親や弟一家も静岡県で御世話になっていることと、静中時代は短かかったが、大勢の良き友に恵まれたこともあって一番懐しい。その友情に感謝すると共にいつまでも大切にしたい。

老ダイバーの呟き

61期　鈴木　孝

私は五八歳のとき、スキューバ・ダイビングのライセンスを取得した。（その時点では、五八歳が同校卒業年齢の最高齢記録だったが、現在では六四歳の女性にその記録を破られている。）

爾来、海底の魅力にとりつかれオーストラリア、グアム、ロタ、インドネシア、フィリピン、ハワイ等、かなりの海を潜ってきた。私のホーム・グラウンド、いやホーム・シーは沖縄で、毎年二、三回は行くことにしている。

それは今年の三月、沖縄本島の西側にあるケラマ諸島、ザマミ島へ行ったときのことである。

海に飛び込む一瞬は、装着している器具が順調に作動するかどうか、今でも緊張する。耳のエアーを抜きながら、静かに潜降して行く。美しいサンゴ島が続き、赤青黄、今は見慣れた南海の魚達が、「久しぶりだネ」といわんばかりに集まってくる。今日の目標は、水深二六米のところにある海底洞窟の探検である。

海に潜る最大の魅力は、その地上とはかけ離れた景観の素晴らしさにある事はいうまでもないが、もう一つ、その深海の水圧が、体の老廃物と一緒に脳の中に澱んでいる総ての思考の滓とストレスを絞り出してくれるところにある。

サンゴの成長は一年間に数粍とか、案外に脆いそれらの枝を引っ掛けないように洞窟の入り口に至る。それぞれに懐中電灯を点灯し真暗な洞窟に進入する。

いや、入って行こうとするのだが前へ進まないのだ。よく見ると洞窟の入り口に突き出たサンゴの枝に、水中カメラの紐がひっ掛っている。急いでそれを解こうと手を伸ばしたその時、私はハンマーか何かで、思考の停止している頭を、ガーンと撲ちのめされたような気がした。

それは機関銃の砲身だった。そうだった。ここは沖縄だった。ケラマ諸島だった。そしてザマミ島。あの時米軍は補給基地にと先ずこの島を攻略し、ここから沖縄本島への上陸作戦を行なった。そのザマミがここだった。

真空状態の頭に、セピア色に変色してはいるが、未だ薄れることのないあの頃の映像が浮かんでくる。襲い来る米軍に数百名の島の守備隊は海岸に砲列を敷き。必死の防戦につとめたであろう。そしてきっと、私と同年代の若者だったであろうこの銃の持ち主も、力の限り引き金を引き続けたことであったろう。

銃の姿は今は変りはて、あの暗灰色の鋼は赤黒色のあばたに変り牡蛎に似た貝があちこちに付着している。半世紀の歳月に堅こそ不様に変ってはいるが、さも何か言いたげに銃口を上に、海の一角を睨みつけている機関銃の残骸。

あの戦争時代の体験は誰が何と言おうと、今も風化する事なく厳然として残る、私の心の原点である。今の若者がロックンロールに舞い狂うように、私は「勝って来るぞ」と「海行かば」に涙を流した。今の若者が毎夜どうやって女を転がそうかと考えるように、私はどうすれば恥ずかしくない死に様が出来るかと、毎夜悶えた。

あれから五〇年、その後の人生において、あれ程真剣に生きた時代があっただろうか、私は国家とか民族とか、天皇制とか帝国主義とか、そんな次元で物を言うのではない。一人の人間が、ただ一度のやり直しのきかない人生の出来事の中での結論である。

その後、自己の為、又は自己に属する家族とか会社とかの為という、利我的人生しか送り得なかった情ない私にとって、自己の利害を乗り越え、且つ、死をも承認しながら生き得たあの戦争時代に遭遇したということは、私にとって、大いなる感謝であると同時に、又誇りでもある。

洗心

74期　藤原　經史

最近よく、人から「お忙がしい様ですネ」と言われます。そう言われることが、自分にとって仕事をやっている様に見られ、うれしく思う前に、人から「お忙がしそうですネ」と言われない自分を創りたいと思うようになりました。お忙がしそうではだめなんですネ、心が亡くなることですから。安岡正篤先生の言葉をかりるならば、「忙中閑有、苦中楽有」でありたい。心の余裕、自分の気持のおきどころによって決まってしまう事かも知れませんが。

最近のマスコミにおける評論家先生達は、確かに勉強されているナーと感心することもありますが、どちらかといえば、もう一歩の踏み込んだ知恵があればと思います。特別に評論家の言うことを気にする必要はありませんが。

「はづべくんば、明眼の人をはづべし」とは道元(正法眼蔵の著者)のことばですが、今の時代にもぴったりのことばです。

新東京印刷株式会社
代表取締役　梶原由三（67期）
東京都中央区八丁堀2-1-7 神鋼ビル
TEL 03-3553-8981(代表)

総合広告代理店
株式会社　アドプロ
代表取締役　朝比奈正三（67期）
東京都千代田区内神田3-4-5 岡崎ビル3階
TEL 03-3254-2171(代表)

山下初雄先生の死を悼む

58期　望月恵一

山下初雄先生は、去る7月20日静岡県磐田市のご自宅で亡くなられました。ご家族の暖かいご看護のもと、93歳のご長寿を全うされました。

誠に残念で、心から哀悼の意を表します。

山下先生は昭和10年から20年まで、静岡中学で英語を教授下さいましたので、卒業50期代から60期代の人々は良くご存知と思います。

先生のご一家は静中とは誠に縁が深かったようで、先生のご祖父様、岡部譲先生（明治26年、国語担当、舎監もされた、山下初雄先生の母方の祖父で、有名な国文学者、賀茂真淵の子孫）、ご尊父様、山下四郎先生（大正11年―昭和13年、地歴担当）と、初雄先生と実に「三代、バトンを受け継いで静中の教壇に立った」と昭和28年創立75周年記念誌に投稿なされています。

先生にお世話になった卒業生の中でも、私たち58期は、当時のクラスの担当教官とクラス編成の方針から、長期、入学から卒業までの5年間ずっとクラス担当として先生にお世話になったものが大勢います。私自身も2年からずっとクラスも変わらず、山下先生にお世話になりました。

私たちクラスメートは、「流線会」という名前のクラス会を作り、最近はずっと、毎年一回、先生のご郷里の磐田市に集まり、会合の後、ご老体で、足は弱くなられたようですが、ご丈夫な先生をお見舞いし、先生を囲んで歓談する会合を開いていました。先生は90歳を過ぎても、頭はしっかりされ、また、お酒を飲むことが大変お好きなようで、私達がお見舞いに伺うと、ちょうど、午後の3時頃だと、おやつにということで缶ビールが出され、先生は待ちかねたように私達と一緒に飲むのを大変楽しみにしていました。また、昔話をすると、「アッ、ソーカネ！」と静岡弁で相槌を打って下さいました。

先生は決してコワイ先生ではありませんでした。生徒を叱るときは極めて優しくいたわるようにされました。私は2学年の時、成績が下がったということで、放課後教室に一人呼ばれて先生は紙を丸めた筒で私の肩を叩きながら、「しっかりしなさい」と注意されたことを今でもはっきり覚えています。

四十九日忌み明けの宴で、クラスメートの思い出話は、先生が授業の初め、しばしば格言などを披露して下さったことでした。中でも、「百尺竿頭一歩進める」「画竜点睛を欠く」「Heaven helps those who help themselves. 天は自ら助くる者を助く」など皆覚えていました。

今も同じかも知れませんが、昔の中学ではほとんどの先生が生徒によって「あだ名」をつけられました。山下先生がなぜ「流線」と言われたかの理由は、先生が静中に着任して間もない昭和10年12月静岡中学校友会誌第三十六号に、「流線型漫語―世界を風靡する流線型の正体」と題する、6ページに亘る論文を載せ、今後、自動車や汽車がスピードに挑戦するには駆体を流線型にしなければならないと、流体力学的説明や、鮫の姿を例にとって説明されたからだと思います。

なお、この校友会誌には先生がフランソワ・コペエの詩、〃仏陀の燕〃を訳されて載せています。その一部に次の節がありました。

「……この時ぞ永劫空に挙げたる右手の裡に、花崗岩と見まごふそが手の裡に、一羽の飛来たりて巣くひぬ。……」

今、先生の霊は仏陀の慈悲に導かれて涅槃の地に居られることでしょう。

どうか安らかにお眠り下さい。

合掌

▼お願い▲

一、この会報についてご意見・ご希望をぜひお寄せください。

一、同期会報告、回想・随想・詩歌など、会報の原稿をどしどしお送りください。（15字詰めで）

◉年会費未納の方へお願い――二千円の拠出をぜひよろしく！

同期会など

四九期

本年度の総会は去る九月二十三日、秋分のよき日に、静岡市緑町の「たちばな会館」で開催された。天候不順の影響をうけて当日は雨であった。

顔を合せた者、総勢二十一名、うち東京及び地方から出席したもの七名、他に夫人一名であった。

鈴木東作代表幹事の挨拶があり、寝屋川の風早英志君の乾盃で宴は始められた。風早君は令夫人同伴で会場に華を添えた。

今年は異常な冷夏に不順な天候に見舞われ、さらに北に地震、津波、南に豪雨、大水害と、昔ならば天下大乱の兆しと世情騒然となってしまったでしょう。

国内では、天下の権が移り、国外では小乱頻発、何時大きな炎が燃え上るやも知れぬ、まさに六〇年前の我々の青春時代を彷彿させるものがあります。

わが期は本年は卒業六〇年目を迎えました。感無量のものがあり、お互に自分の健康、奥様、子供様、お孫様の話につきることを知らない有様でした。

東京でも一昨年浦野庸二君（平3・11・3）去年曽根重四郎君（平4・9・6）が亡くなり、続いて小林道雄君（平4・12・9）が昇天されました。深くご冥福をお祈りする次第です。

出席者は地元から鈴木(東)、上田(栄)、杉山(佐)、沢野、清水(慧)、渥美、大塚、岡村、風間、杉山(熊)、寺平、寺尾、戸塚、山本(巌)、東京から植木、加藤(馨)、直原、嶋、菅沼。名古屋から松原、寝屋川から風早及び令夫人。

出席者一同は揃って元気一杯で話もはずんでつきなかった。

本年は卒業六〇年目を迎え記念行事として翌二十四日は、懐しの駿河路の散策が計画実施された。

参加者は一〇名だったが昨日にとって変った好天だったのが何よりも幸いだった。

コースは、静岡駅に集合し、遊覧バスで、駿河の総社の浅間神社に詣り、次いで霊峰富士をのぞむ日本平へ出て、ロープウエーで久能山東照宮へお詣りした。

神廟（家康公のお墓所）への坂路の石段は高さが三〇センチもあり大苦労した。

それから清水の次郎長一家の眠る梅薩禅寺へ寄り、清水港に出て遊覧船にて駿河湾内を一周し三保の松原へ出た。羽衣の松は二代目といわれているが貫録十分な姿であった。それから弥生時代農耕文化の貴重な登呂遺跡、すぐそばに人間国宝であった染色工芸家芹沢銈介氏（28期）の作品を集めた芹沢美術館（生憎休館）へ進み、静岡駅南口に帰着した。

まことに幸運なことに日本平、三保の松原では藍色の富士山を眺望することが出来た。

もう一つ嬉しいことは大塚賢一君が昨年の総会の最後に小生が披露した養生訓の「ころぶな、かぜひくな」をずっと守っている、青竹ふみも励行していると言ってくれたことだった。

生き残りの我々はさらに頑張って次につづく若者によりよき日本を申し送れるよう心掛けたいものだ。

最近、一国の首相ともあろう人が、簡単に大東亜戦争は侵略戦争だなどと放言している。侵略とは土地を植民地化する行為であり、マッカーサーでも昭和25年10月にウェーク島に於てトルーマン大統領と会見し「東京裁判は誤りだった」と告白し、翌26年最高司令官を罷免されて帰国するや米国上院の或る聴問会で、日本が行なった戦争は、自国の安全保障のためであり、即ち侵略戦争ではなかったと証言した。

日本の政治家達の大半が「大東亜戦争」という公定の名称を使うことを知らず、我々の数百万の戦死者も皆、大東亜戦争を戦ったものばかりであるのだ。

我々も戦争の原点にかえって、不謹慎な発言は要注意である。

数多くの戦友の戦死を想い加筆したものです。

（菅沼　栄）

五一期

我々五一期生には一つの目標がある。平成七年末までにクラス会の五一回目を開くことであり、会員はそれまで元気でいて出席しようとしている。平成七年にはクラスの大部分が満七七歳になるからである。そうなると一年に二回の割合で開催する（一年二回とは静岡と東京で交互に開くこと）。

今年（平成五年）の春は通算四五回を四月九日（金）に東京で開催した。会場は日本橋「いけ増」である。静岡から狩野君、牧野君、鈴木義一君等三名の元気な姿が見

られた。

静岡の狩野君から「静中五一会会員の懐かしの映画・想い出の映画」はその後の評判が良く増刷したとの報告があった。久しぶりに東京会に出席した鈴木義一君「十一年振りに出席したが東京の皆に逢えて嬉しい」伊豆の丸山君「大浴場と露天風呂が完成したので皆さん是非お出掛けください」広瀬君「在京の有志で定期的に会食しているが多数の参加を歓迎します」皆仲々元気だ。今回は幹事の独断専行と通知の手落につき出席者から強くお叱りを受けたので事務担当幹事は平謝りに謝った。

当日の出席者は蔭田正之、飯田鉄雄、大富部国男、狩野安彦、佐伯正剛、下山富太郎、鈴木義一、高橋達郎、玉越俊一、鞆波悦朗、原崎郁平、林盛次、広瀬毅、藤田修二郎、牧野三郎、丸山雅生、森弘、渡辺寛孝。合計一八名

（原崎郁平）

五五期

手をあげて此世の友は来りけり

三橋敏雄

（九三、八、一四　朝日新聞　大岡　信「折々のうた」所載）

ひとりまたひとりとあの世の友がふえてゆくとき、「やあ」と手をあげてやってくるこの世の友に会えるのはまことにうれしいものである。

今年は、十月四日（月）の正午から、場所はいつもの新宿区荒木町の「山宮」で、平成五年度の関東五十五期会が開かれた。

五十五期は全員が満七十歳を超えて勤めを持っている者でもかなり自由がきくようになったことと夜の外出はなるべく避けたいという人がふえてきたことから、今年は会の時間を昼からにしてみた。しかし、まだ、昼は仕事という人もあるらしく、出席者数は去年と全く変わらなかった。本年度の出席者は次の九名である。

石神庸一、小沢忠樹、武井富夫、中田千束、野中　篤、法月重雄、山本孫一、日比光明、相川富士雄

なお、昨年十二月、小坂欣二君が亡くなり、関東五十五期会の会員数は三十三名となった。

（相川富士雄）

六四期

◎七月七日、一年に一度の会合を今年も新橋の新橋亭で開催。世話人代表の名波倉四郎君が外遊中なので、出席者が減るのではないかと危惧したが、二十八名の同期生が顔を見せてくれた。久しぶり出評の蛭川博之君、柳田堯君、静岡より、特産の「黒はんぺん」持参の近藤昭蔵君、山下啓也君。会は一直線にふる里静岡へ。

司会は記憶力抜群の「もとさん」によって例年の如く進行。珍談、爆笑に暫し時の経つのを忘れた。

特筆したいのは、増田政雄君が妙徳の重役で台湾工場を再建し発展させたにも拘らず会社に辞表を提出した理由。益頭尚文君の南米アマゾン旅行談。望月康逸君の、不況も会社にとって「チャンス」。仲野実君の人生百十五歳まで長生きする目標と健康法。

塚本光彦君より故酒井三到男君の追想と告別式の報告あり。

六四期会を毎回盛大にしてくれる常連の吉井駿亮、加藤満、長谷川直和、松下一男、竹内豊、長島健、山本光夫、増田誠男、永田進一等の諸君に厚く御礼を申し上げいた。

◎今年は天候不順だったが、金木犀が甘い香をただよわせる十月十日。絶好の快晴、遠くに富士山の頂きを見ながら、伊豆大仁てに第十七回ゴルフ大会を開催した。

あらためて昭和五十六年以降十二年間にわたり十月十日にコンペを用意してくれる六六期の安田正弥君の御好意に感謝する次第である。

集る同志東京十二名、静岡四名のいつもの顔ぶれが、秋晴れの一日を楽しんだ。新井彰君は欠席。

昭和六十年初登場以来八年間の努力精進の成果が実った山本和彦君が優勝、お目出度う。二位は風間政彦君、三位漆畑茂君、ブービー賞は岩本吉雄君、ベストグロスは伊藤剛君。毎回不自由な身体にもかかわらず参加し、必ずラウンドする浅井幹夫君の精神には唯々感服する。残念ながら今年も神谷武男君の入賞はなかった。

◎なお、九月十三日から栗田行雄画伯の個展が新橋にて催され、多数の仲間が観賞に参上した。栗田君、お目出度う。

◎同期の森下啓造君が逝去されました。謹んで御冥福を祈ります。

（野沢正憲）

六七期

還暦を迎えた男達の第50回ゴルフコンペ

小さな胸に大きな希望を抱いて昭和二十年四月、長谷の静岡中学校の印高の門をくぐり、中学生となった実感が湧き始めて二ヶ月、六月二十日の空襲により校舎は焼失し、焼け残った工作室で二部授業が行われました。

その後、住友青年学校、三菱重工事務所、そして静岡連隊旧兵舎へと全員で机、椅子を持っての大移動を行い、学校名も静岡中学校、静岡第一高等学校、静岡城内高等学校と変り、誠に慌しい中学・高校時代を我々は過して参りました。

勿論満足な食糧もない、そんな

多難な時代に、六年間を共に苦労して来たからか、六七期は連帯意識が強いというか、又はお祭りさわぎが好きなのか、東京で、静岡で、又はその他の地域で、毎月十数名が集っては杯を交わし、旧交を温めております。それ故、卒業三十周年、四十周年の記念行事、記念誌の発行等盛大に行なって参りました。

そんな男達も、本年三月を以って全員が還暦を迎え、人生の第三幕目に入りました。そして六月二日に六七期第五十回ゴルフコンペを、伊豆大仁カントリークラブにおいて開催致しました。

昭和四十年静岡カントリークラブ島田コースが出来た時に、秋山泰利君、永井滋惟君、故人となった白鳥忠司君等によって始められた此のコンペも、現在登録者六十五名を数え、今回五十回目を迎えました。この様に長きにわたり行われて来たコンペも、あまりないと存じます。

今回は出席の二十名全員が各自賞品を持ち寄ると共に、決算総会時期のため出席出来なかった大石卓君、野村実君、猪谷房雄君、手塚重明君等からも賞品の寄贈を戴き、絶好のゴルフ日和の下、全員和気藹藹、昔の悪ガキに戻って冗談を言い合い、球を追いかけ、見事溝口淑郎君が優勝、鳥居滋夫君がBBと決定し、両名が次回の幹事に決定しました。

67期コンペには名物の優勝楯があります。タテ80㎝、横50㎝、厚さ10㎝の大楯です。昭和42年永井滋惟君がケヤキの一枚板を清沢の実家から持参し、吉沢清治君、長谷川佳三君とで、柳町在住の彫刻家に無理に頼んで、大文字の「優勝」「印高」「67期」を彫ってもらい、清酒三本と一万円の謝礼をして出来たものです。

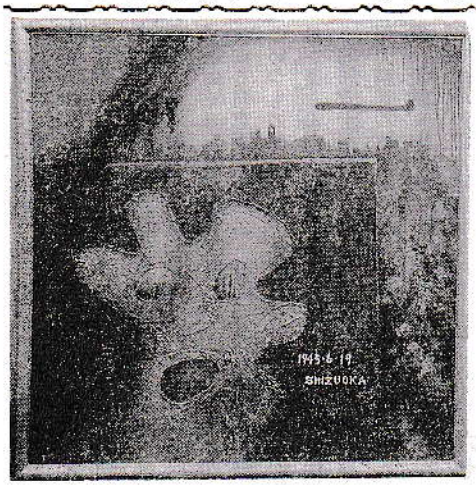
しかしこの大楯、あまりの重さのため、優勝して持ち運びも大変ですし、自宅の部屋へ置くと、畳が沈んでしまうという大楯です。何時頃からか67期のゴルフコンペでは、此の大楯のこわさに優勝だけはしたくないという世にも珍らしいコンペになってしまいました。

かくいう小生も過去三回その被害を受けた一人です。いつの日かこの大楯も同窓会館に飾られる事になるのではないかと思います。

参加者　小坂、川上、太田、牧田、岩崎、横山、秋山、鳥居、中村、桜井、溝口、八木、西畑、増田、海野、滝川、佐藤、鈴木、石井、黒田

（黒田秀幸）

64期　栗田行雄氏
油彩画個展などのご案内



独特な画風で昭和62年以来、毎年二科展に続けて入選している栗田氏は、本年9月13日から18日まで西新橋のギャラリー「いそがや」で個展を開かれました。

「同窓会関係でも諸先輩、同級生後輩が多数見てくれました。貴重な意見も多く感謝しています。何よりも久々にゆっくり自分の諸作品と対面し、描いている時とは全く異なった総合的客観的反省ができたことは何よりの収穫と思っております。来年4月と秋、また個展を開くことに決めました。その時はまた違ったものを見て頂けるようにがんばるつもりです」このような便りを寄せられました。

来年の個展の予定は、

○4月16日（土）～21日（木）
　10時～17時（休日なし）
　しずぎんギャラリー「四季」
　（静岡市追手町一―一三）

○10月10日（月）～15日（土）
　11時～19時（最終日は17時）
　ギャラリー「いそがや」
　（港区西新橋一―四―一二
　長尾ビル7階）

多くの方々にぜひ鑑賞していただきたいと思います。

なお、栗田氏は駒形小から静中へ。木造校舎の鉛筆デッサンが村上先生より成績「秀」を受け、絵画への関心を深めたそうです。

18年間静岡銀行に勤務した後、油絵を学び始めるとともに画材店を開店、クロッキー道場も開いて画業に精進しています。

連絡先は調布市仙川町一―九―六一
有限会社「モッテ」

（編集部記）

静岡だより

県庁別館ようやく工事へ

ゼネコン汚職の余波を受けて、足踏みしていた静岡県庁別館の工事が、このほど三カ月遅れで、漸く着手の運びとなりました。

県庁東館の北側、敷地面積約千七百平方メートルに、地下二階、地上二一階建て延べ二万六五〇〇平方メートル、塔屋建物部分が九八メートル、アンテナデッキ部分を含むと、約一一〇メートル、静岡市内で最も高い建物になるそうです。建設費は約一九三億円、平成八年の完成予定です。

静岡駅南口に広場

開発整備の遅れがとかく批判されるのが静岡の街づくりですが、このほどようやく静岡駅南口の整備が始まりました。この会報が出来るころには南口の正面に広場が姿をみせるでしょう。

北口では、静岡中央郵便局の新庁舎の建設が進んでいます。今の局舎のすぐ安倍川寄りで、静岡市民ホールなど、新しいコミュニティセンターとして期待されています。

安倍川には橋が何本？

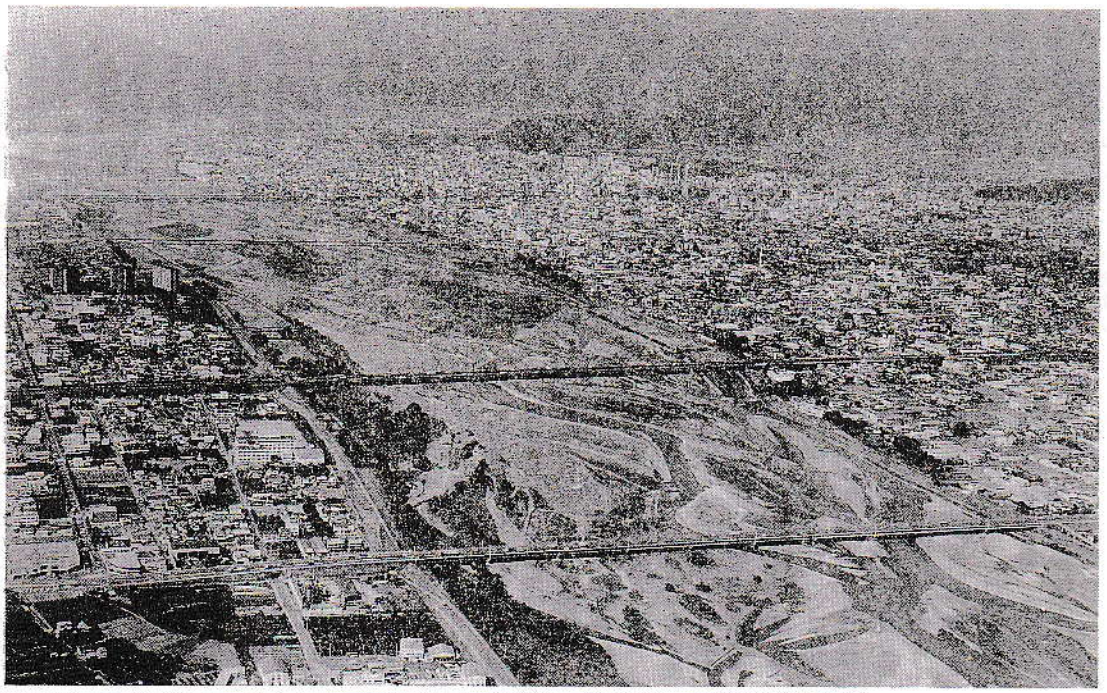
安倍川には、今、橋が何本あるかご存じですか。

上流から下流へ玉機橋、竜西橋、曙橋、狩野橋、安西橋、安倍川橋それに国鉄（JR）の鉄橋。静岡駅前を真っ直ぐ、国道一号線が延びた時に架けられたのが、駿河大橋でした。

その後新幹線の鉄橋、東名高速道路の東名安倍川橋、河口近くには一五〇号線に南安倍川橋などが架けられました。一向に工事が捗らない静清バイパスも橋だけは、狩野橋と安西橋の間に架けられた安倍川大橋が開通、利用されています。

一番新しいのは昨年秋に開通した静岡大橋で、新幹線鉄橋と東名安倍川橋の間に架けられました。橋の両側からの道がまだ行き止まりの状態のため、利用価値は今ひとつといったところです。

（67期　光木　徹）



安倍川下流に架かる諸
↑手前から南安倍川橋、東名安倍川橋、静岡大橋（平成四年秋開通）新幹線、JR線鉄橋、駿河大橋＝三本は接近して一つに見える＝安倍川橋、写真の右側が静岡市街
←開通した静岡大橋

平成五年度会費拠出者

（順不同・敬称略）

平成5年4月1日～5年10月31日

井出多米夫、岩波信平(5)、中嶋敏、吉田幸一、宮澤次郎、倉沢栄吉、西沢純三、三好由三郎、邛　晴行、北里良夫、長戸覚美、望月孟夫、吉江誠一、松下篤三、山村忠雄、長田寿雄、松下清夫(10)、高橋真一、佐藤文三、臼井茂、草野哲、田附敏三、鈴木弥門、石上稔、下川猛(3)、柏木千秋、堀正治、竹下定吉、伊藤敬三、松林晋一、速水基夫、青木清明(5)、篠原清、磯塚倫三、関口不二夫、星野三郎、今関智吉、田中達夫、山上信重、近藤希賢(5)、河村祥、大橋広世、北村三明、岩崎鑑一、原崎進一、伏見賢治郎、青木香、日比野悦三、福永正美、菅沼栄、直原敏衛、鈴木鑑、篠原泰、長井広、嶋三四郎、大津英輔、陰山修次、山村忠平、梶原忠治、住太郎、梅村魁、一　一彦、山田喜志夫(5)、大庭富士夫、大庭左文、峰田静夫、森　弘、蘆田正之、鈴木孝雄、佐伯正剛、伊藤瀧吉、林盛次、渡辺寛孝、服部雅雄、広川聡、大草知久、茂呂茂樹、市川雄八郎、小川善次郎、直原澄衛、綾部立一、遠藤暉、新美弘、西田豊馬、一　誠(6)、苫米地一楼、大石巌、奥野孝、小野一夫、島田良彦、園田芳男、徳永悠久、橋本久仁寿、月見里得知郎、山菅章雄、桜井昌也、宗像醇、片桐鎮夫、志田寿一、三枝正裕、松前新太郎、野崎昌輔、手島正一、望月昻、長阪光夫、庵原悌次、大畑忠夫、川本平八郎、渡辺治郎、佐野圭司、平林一郎、磯野修、高井昻、篠原範平、佐野資郎、居初良雄、相川富士雄、武井富夫、長沢栄一、成瀬信男、法月重雄、中田吉信、野中篤、中田千束、戸塚正五、小沢忠樹、堀江重遠、松井保治、木村康宏(3)、日比光明、辻　弘、高橋四郎、山田隆、中村治郎、石塚由雄、清水逸郎、鈴木源一、佐野豊彦、杉原恭二、鶴岡英彦、岩井平一郎、影島利邦(3)、月見里礼次郎、米沢正次、坂田秀雄、菅　稔、久保田誠三(3)、島根光明、酒井博、大島隆夫、岡田久男、加藤健三、藤巻重男、望月修、山中孝二、岡田淳已(5)、堀江隼人(10)、奥野広、伊藤健三、海野進、須山静夫、猪瀬忠賀、宮崎佐一郎(4)、杉山英男、伏見祐一、土佐光明、奥沢徹、小花敏郎、川田昭、福地彊、増田真一、近藤陽三、勝呂清、原　淳、酒井哲夫、加藤恵一、菅原操、佐野英一、長田宏、大塚恒、関寛治(3)、曲淵景敏、瀬端一男、伊藤光雄、大村和夫、上杉重吉、大石隆一、笠間達男、堤　崇、時田正康、益田清聞、新間昌輝、逸見昭三、柴田正臣、辻村輝彦、山路敬三、渡辺博、萩原荘太郎、斉木学、君島康弘、井田淳、山本正三、野沢栄司、石関忠雄、原田竜二、内藤敏夫、沢田祐夫、奥野泰助、高村岳史、清水照彦、君島敏男、西田駿之介、赤羽昭二、宇都宮道和、青木邦彦(4)、大石次男、相馬孝、佐野剛、徳永重遠、萩原将弘、鈴木孝、伊藤久、安原徹治、稲森慎二、八木貞二、山崎和夫、松永典昭、芹沢博樹、北村鎌二、高山秀男、深井晏(4)、花見久、加藤平三郎、鈴木新之輔、柴田克朗、横井一、浅井幹夫、新井彰、岩本吉雄、大村達郎、加藤満、神谷武男、栗田行雄、佐野旭、名波倉四郎、永田進一、長島健、長谷川直和、益頭尚文、吉井駿亮、増田政雄、馬場泰男(3)、狩野達彦、山本和彦、増田誠男、姪川博之、松下一男、山本光夫、竹内豊、遠藤栄(3)、八木綱三、柳田堯、豊納健蔵、望月康逸、塚本光彦、仲野実、村上喜代二、渡辺宏一、河守輝雄、久保泰夫、田中俊男、辻陽一、増井和夫、森山秀夫、安池智策、河合正純、小嶋清司、菊田聡裕、高橋宏、大坪信之、山梨裕司、原野谷朋司、早見幸雄、石川剣二、大村敏夫、武藤勇、大原直樹、菅原馨、中村伸吾、三原載、藤原隆二、村松武司、佐野栄一、永島秀次郎、村越立彦、湯浅謙、牧田善司、永田陽一、内田幸雄、大塚修弘、深沢正山本俊夫、遠藤一彦、大石脩而、梶原由三、黒田秀幸、小坂博、成岡英彦、福原亨一、牧田仁男、溝口淑郎、鈴木秀治、大森恵吉、岡村英二郎、丸山英久、小杉弘、増田安国、松本安子、加藤友行、鳥居滋夫、朝倉勇、河口正義、児島英男、朝比奈正三、鎌野悦雄、田中映吾(3)、岩崎為明、山川静夫、矢部隆黒石聖一(4)、高山彰夫、雨宮明生、岩瀬順郎、佐野川好母、鈴木俊彦、高橋俊見、塚本浩司、萩原多賀男、星野敏郎、荒谷じつ子、大橋勝弘、酒井定子、市原卓、額縁晃生、宇田貞子、田中英夫、杉山忠男、斉藤武、井口禎、植田勇夫、鈴木満郎、石川勝也、武光康之(4)、藤波真五、吉崎英輔、渡辺郁馬、佐野緑朗、瀬口寿一郎、曽根義明、河口浩、小林泰三、堀場千賀重、堤章八木義弘、原野谷和弘、原久弥、二宮靖雄、槽屋金史(3)、加藤喬志、植村守代、石山博、岩崎修、大高源之丞、関哲男、中村竜二、味岡宏、柳沢伯夫(5)、佐々木政之、宮代省一、渡辺勝美、小林孝光、松隈明雄、谷川治弘、斉藤晴彦、大長智、冨田三樹、

50　49　48　47　46　45　44　43　42　41　40　39　38　37　36　35　34　33　32　31　30　29　28　27　26　25　24　23　22　21　20　19　18　17　16　15　14　13　12　11　10　9　8　7　6　5　4　3　2　1

71
松永茂、藤巻貞夫、白石通子
野田卓男、森野寿美子、河井
良夫、松井昌夫、牧野甫、田
中宏志、遠藤藤弥、大場良臣
西山信三、清水令一郎
梅原孝允、片山守彦、繁村一
雄、矢部正和、後藤弘枝、海
野幸雄、秋田和男、佐藤利治
森川滝太郎、石川宏、浦田彰
(3)、実石欣哉、加藤祐史、
小池啓治、本間啓司、山本弘
美、岩崎剛(3)、富野寿、三
上祐一

72
山口公子、種茂雅之、木村克
彦、夏目雅之、岩下方彦、加
来義信、山田勝、野崎誠介、
増田欽一、清水雅彦、前田信
三、佐藤允弥、大木通宏、黒
岩嘉明

73
後藤孝子、君島武男、鈴木智
彦、深沢靖男、佐々木勝彦、
遠山敦子、飯塚迪子、大村博
中西英一、山下勇三、加藤甫
牧野昭雄、冨田彬通、児玉光
宏(3)、大村春樹、大木茂、
安藤韻男、小山武夫

74
松下晴一(3)、佐藤鐘司、稲
葉一宇、桑原英明、桑原伊玖
子、藤原経史(5)、中西健、
田中佐智子、佐野捷造(7)、
山脇伊久男、水上雅雄

75
鈴木正孝、大石光宏、友田徹

76
岡村幸雄、小栗悠嗣
鈴木浩、伊藤哲治、富田駿介
加藤重信、大岩蓮、仁科光司
野方重人、清水雅尚、松永秀
夫、加藤軍平、藤井尚子、増
田洋美

77
山本洋一、中村政彦、八木博
秋山幹男、諸星勝保(4)、長
倉利夫、玉井尚子、水野雄三
吉田伸一郎(5)、柴田裕(4)
榎本進(3)、青野稔、松浦正
朗

80
鈴木良彦、多賀谷秀保、吉田
昌史

82
鈴木秀孝、浅井隆善(4)、大
石高志、田中渉

83
田辺哲、吉野文江、成田恵理
子、村松哲太郎、司馬立、鈴
木敏正、杉本浄(3)、八木一
仁、鈴木啓俊、竹下晴久、小
沢治夫(3)、市野昭一

84
望月信幸、池田幸司、永田悟
高橋成彰、井原透、佐久田博
司、原本昇一、吉尾豪容、滝
沢きよ子、片井正興、江川俊
次、森茂好広

85
成岡和美、児島賢
薬科名雄、石渡洋行、石川嘉
和、滝幸彦、塩川治郎、小野
田澄子、鈴木俊彦、泉洋子(3)
鳥巣毅、針谷千鶴子

86
松井達彦

87
伊藤靖郎、鳥巣修、川口浩明
杉田達哉、秋野徹
荒井千明、清よしえ、佐伯か
をり

89
榛葉俊一
平松裕、川村朱美

90
大津仁昭、英公一、磯部洋祐
渡辺泰夫

91
斉藤里美(4)、矢部竜太郎、
小山田潔、佐々木美登里、松
野敦子、高木均、松岡幹生、
平沼義幸

92
落合直樹、永江総宣、新村昌
弘

93
朝比奈由典、片山麻子
飯田知弘、高田俊道、清水智
人

94
小野尚美、重村武
田旗裕也(3)

95
安池倫成、鈴木洋一郎
海野薫(4)、山崎善彦

96
岩本牧子

97
円沢卓久、八十浜修一
鈴木大善、斉藤光晴、山本新
稲葉博隆、久保大作(4)、甲
木雅子、東雪子、高木信幸、
深山浩美、村田健仁

98
笠井勇治、鷲巣大輔、杉山大
輔、宮崎秀樹、高野重亮、西
尾直也、笠文子、小長井いづ
み、五味有希子、河合健志、
尾関真由美、池ヶ谷有香、村
山裕司、柴田章利、村岡洋次
郎、宮崎浩平、山本哲生、大
久保仁嗣、尾上智美、宇津野
恭子、伏見雅也、高橋有紀子
松村憲一、一条直子、安本敬
介

99
白鳥香卓、加地誠志、池谷直
子、青木健太郎、岡本あづさ
和田和也、柴山慎也、藤島孝
章、小沢滋雄、小西茂永、山
口貴史、杉山智樹、青柳祐子
大橋昌生、小柳健倫生、中園
晃之、君塚亮之、松下淳一、
平野邦夫、日比孝平、星井慎
吾、奥川敦史、伊藤暢之、相
沢摂治、学木成

100
位田亜希、前田奈々江、遠藤
加洋子、大竹健一、阿形達志
大枝和之、後藤貴哉、牧野暁
一、村上敦告、中村しのぶ、
加藤正徳、泉山裕次郎、園田
光憲、小田巻俊孝、佐野弘幸
河田教吾、仲村科子、田辺忍
片川智子、後藤薫、小和田由
布子、上坂典幸、藤島雄一郎
水野陽一、八木利也子、本多
洋介、内田恵、佐藤順之、西
村健吾、太田裳穂、大沢尚哉
高久剛、望月達也、池谷宗之
川上勤、杉山博昭、山崎真理
殿岡史裕

103
104
105
106
107
108
109

内科・外科・整形外科・皮膚科・放射線科
人間ドック
熱函病院
院長　小坂　博（67期）
住所　熱海市春日町12—2
TEL 0557-83—3131

国際線航空貨物・海外旅客取扱い
運輸大臣登録旅行業代理店業3440号
㈱フジ・ワールド・エンタープライズ
代表取締役　中馬敏雄（70期）
〒105東京都港区浜松町2-8-9春原浜松町ビル
貨物電話　3434—0591（代）
旅客電話　3437—5861（代）
FAX　3434—5537

鈴与株式会社

取締役社長　鈴木通弘（76期）

清水市入船町11－1
TEL 0543(54)3015(秘書課)
東京支店　千代田区丸の内2-3-2 郵船ビル4F
TEL 03(3284)0553(総務課)

新日本証券株式会社

相談役　大石巖（53期）
㈱新日本証券調査センター
常務取締役　谷川治弘（70期）
常務取締役　海野幸雄（71期）
国際本部課長（香港駐在）　小林一郎（90期）

東京都千代田区神田駿河台3-11 〒101-03
TEL03-3219-1111(代表)

建築コンサルタント・設計施行業務
建築に関する御相談は御気軽に……

株式会社 大雄

取締役社長　奥野孝（53期）

本社　東京都台東区東上野2-18-7 共同ビル10階
TEL 03-3834-5331(代表)

株式会社 東電社

取締役社長　岩波信平（42期）

東京都品川区西五反田1－14－2
TEL 03(3493)6391(大代表)

日本レーベル印刷株式会社

代表取締役　岩井平一郎（57期）

本社　静岡市国吉田3丁目1番1号
TEL 054(262)1111(代)
東京　中央区京橋1-1-6越前屋ビル8F
TEL 03(3272)4651(代)

建築設計・監理

株式会社 奥野建築設計事務所

取締役会長　奥野孝（53期）
取締役社長　奥野進（56期）
取締役副社長　奥野広（58期）

本社　東京都台東区寿2-5-12 加瀬ビル
Tel 03－3842－6831(代表)
静岡事務所　静岡市安東2-8-14
Tel 054—246—9378

建築設計・監理

株式会社 ユニオン設計センター

代表取締役　成岡英彦（67期）

一級建築事務所登録7425号
東京都新宿区西新宿7-14-9 規格ビル
TEL 03-3363-8604(代表)

自動車・電機部品の自動塗装及びシルクスクリーン印刷

株式会社 勝山塗装工業所

代表取締役　奥澤徹（59期）

本社　横浜市瀬谷区橋戸3－25－6　〒246
Tel 045-301-5545
大和工場　大和市深見3706－1　〒242
Tel 0462-62-0340　FAX 0462-62-0343
東松山工場　東松山市大字新郷88－47　〒355
Tel 0493-24-2511　FAX 0493-24-2513

昼2時より夜11時まで診療

タカラ歯科診療所

代表　藁科（ワラシナ）名雄（87期）

東横線 中目黒下車徒歩5分
TEL 0120-376480

株式会社 富士越
株式会社 富士越化成

代表取締役　野澤正憲（64期）

東京都渋谷区東2－14－9
TEL（3409）3342代
TEL（3400）9541代